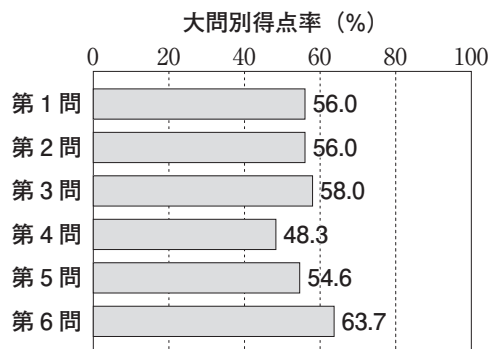
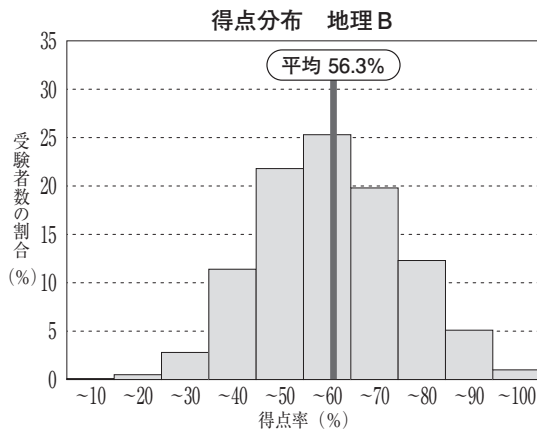


地 理 B

夏休みの学習の成果を得られた。さらに学力を伸ばしていこう！

I. 全体講評

今回の第4回8月センター試験本番レベル模試の平均点は56.3点であった。前回6月の52.2点より4点以上、2月の第1回と比べれば12点近く高くなっており、夏休みの学習を含むこれまでの努力が成果として表れ始めたと言える。しかしながら、今年のセンター試験本試験の平均点62.3点には6点及ばず、まだまだ成長途中であり、学力は完成していない。今回得点が伸びた受験者も、油断せずしっかりと学習を継続すること。センター試験本番までに残された時間はあと4か月程度である。これからは、英・数・国などの主要科目と同じくらいに地理の学習にも力を入れていきたい。地理の実力が最も伸びるのは秋からである。Ⅲ. 学習アドバイスを参考にして、効果的かつ効率の良い学習に取り組んでいこう。



Ⅱ. 大問別分析

第1問 世界の自然環境と自然災害

地図帳を頻繁に開いて、気候・植生・土壌や、山脈等の地形の分布を頭に入れよう。

大問の平均得点率は56.0%であった。前回6月の自然地理の大問の平均得点率は46.6%と6つの大問中で最低であったが、今回はかなり改善された。自然地理分野は、産業、集落等の他分野を理解する基礎にもなる重要分野なので、今後も力を入れて学習すること。問3は誤答②の選択率が24.5%とやや高く、黒色土と栗色土の分布を気候・植生と関連づけて正確に理解できていない受験者が多いことが明らかとなった。問5も誤答③の選択率が35.1%と高めであり、テンシャン山脈の位置を認識できていない受験者が大勢いるとわかった。地理学習は事物の分布を頭に入れることから始まる。地図帳を頻繁に開き、気候・植生・土壌の分布や、山脈・平野・河川等の地形の分布を頭に入れよう。

第2問 農林水産業

図説資料集の地図は極めて役立つ情報を得られる。積極的に見て、学習に役立てよう！

大問の平均得点率は56.0%であった。農業と水産業を扱った問1~4と問6についてはまずまずの出来であったが、林業と森林破壊を扱った問5の正答率が37.3%と低かった。多くの人が、中国が退耕還林によって森林面積を回復させていること知らず、②のブラジルと③の中国の判別に苦しんだ。そのため、誤答②の選択率が33.2%と高くなった。森林面積の増えている国と減っている国は、ほとんどの図説資料集に地図で示されている。図説資料集の地図は極めて役立つ情報を得られるので、学力向上に役立てたい。

第3問 民族文化と生活文化

統計図表を読み解く力を伸ばし、正確な知識を身につけ、得点力を高めよう。

大問の平均得点率は58.0%であり、6つの大問中

で2番目に高かった。まずまずの出来であったが、いくつか気になる小問もあった。問2は誤答③の選択率が28.1%と高かったため、正答率が43.5%と低めになった。先住民に該当する③を、メスチーソのものと判断してしまった受験者が多かったわけだが、そのような受験者の多くは、メスチーソにあたる選択肢だけを探そうとし、先住民など、他の項目と選択肢を一致させる努力を怠った。全ての項目と選択肢を一致させようとするれば、統計図表の読み解き問題の得点力は飛躍的に向上する。問3は、誤答④の選択率が24.1%と高めであったが、④を選んだ受験者の多くは、ルーマニアが民族島であることは知っていたが、スラブ民族の多い地域におけるラテン民族の民族島であることはわかっていなかった。教科書や図説資料集で扱われる基礎事項については、正確な知識を身につけておく必要がある。

第4問 西アジア地誌

“自分の知識に無い”イコール“誤文”ではない。説明に矛盾が無いかを吟味しよう。

大問の平均得点率は48.3%であり、6つの大問中で最も低かった。多くの高校が系統地理を終えてから地誌を扱うため、例年、この時期の地誌の出来はあまり良くないが、2016年度よりセンター試験でも地誌の大問が1題から2題に増えるなど、近年、地誌の重要度は増しているの、早めに本格的な学習に着手したい。問1は誤答①の選択率が36.2%と高く、問5も誤答②の選択率が32.3%と高かったが、前者は、北アナトリア断層を知らず、ずれる境界と言えばサンアンドレアス断層と思い込んでいる受験者が①を誤文と判断した。後者は、サウジアラビアやエジプトの事例を知らず、センターピボットと言えばグレートプレーンズと思い込んでいる受験者が②を誤文と判断した。正誤判定の問題は、「知っている or 知らない」ではなく、「説明に矛盾がある or ない」で正誤の見極めをすべきである。“自分の知識に無い”イコール“誤文”ではないことを肝に銘じてほしい。

第5問 オーストラリアとロシア

二年続けてセンターに出題された二つの国を比較する地誌の問題に早く慣れよう！

大問の平均得点率は54.6%と、6つの大問中で2

番目に低かった。2016年から2年連続でセンター本試に出題された二国の比較地誌を出題してみたが、振るわない結果となった。新傾向の大問で、慣れていない受験者も多いに違いないが、早くこの形式にもなじみたい。問3と問4がよく出来ていたが、産業経済に関する統計図表の読み解き問題は頻出なので、このまま得意なタイプの問題にしたい。

第6問 地域調査 (愛媛県)

好結果であったが、統計地図や入江地形の特徴についてはよく復習しておくこと。

大問の平均得点率は63.7%と6つの大問中で最も高かった。地形図や統計図表を読む力など、地理を学ぶ上で不可欠な能力が試される地域調査の大問で良い結果が出て喜ばしい。全体的によく出来ていた中で、カルトグラムの用い方を問うた問7は、全小問の中で最も低い正答率となってしまった(15.0%)。図形表現図、階級区分図、カルトグラム、流線図、等値線図といった統計地図の適切な用い方を復習しておきたい。問3も、空欄イに当てはまる語を“浅く”と判断した受験者(①②⑤⑥)を選んだ受験者が、57.1%に達したことが気になった。リアス海岸などの入江が航行や養殖業に向いているのは、水深が深く、船が底を擦りにくいからである。しっかり頭に入れておくこと。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆センター形式の問題集で実力を伸ばそう！

センター試験までに残された時間は約4か月である。そろそろセンター試験本番形式の問題集に取り組み始めたい。その際、60分の試験時間にはまだこだわらなくてよいから、教科書、図説資料集、地図帳、用語集等を参考にし、満点をとるつもりでじっくりと問題に向き合うようにしたい。統計図表の問題なら、曖昧に選択肢を特定せず、根拠を明確にしてから正解を絞り込む。文の正誤判定の問題なら、正解以外の選択肢についても、理由をはっきりさせた上で正文か誤文かを判定する。このような演習を繰り返していけば、問題を解く思考力を身につけながら、高校生が頭に入れるべき重要事項を概ね復習することができる。地理は秋以降に目覚ましく実力を伸ばせる科目である。がんばってもらいたい。